

平成 28 年 監 査 報 告 第 1 号

定 例 監 査 報 告

(定例監査)

教 育 委 員 会

市 議 会 事 務 局

水 道 部

市 立 半 田 病 院

半 田 市 監 査 委 員

目 次

【定例監査】	1
教育委員会	
図書館	2
博物館	3
小中学校・幼稚園	3
(半田小学校・乙川小学校・亀崎小学校・花園小学校・成岩中学校・ 半田幼稚園・亀崎幼稚園)	
市議会事務局	
議事課	6
水道部	
下水道課	6
上水道課	7
市立半田病院	
医務局・看護局・事務局	8
むすび	9

監 査 報 告 第 1 号
平成28年 2月15日

半 田 市 長 様
半 田 市 議 会 議 長 様
半 田 市 教 育 長 様

半田市監査委員 西 川 承

半田市監査委員 久 世 孝 宏

定 例 監 査 結 果 の 報 告 に つ い て

地方自治法第199条第4項の規定に基づいて定例監査を行ったので、その結果を
同条第9項の規定により報告いたします。

第1 監査の時期及び対象

教育委員会	平成28年	1月18日	乙川小学校	・	亀崎幼稚園
		1月19日	半田小学校	・	半田幼稚園
		1月20日	花園小学校	・	亀崎小学校
		1月21日	成岩中学校	・	図書館
			博物館		
市議会事務局	平成28年	1月19日	議事課		
水道部	平成27年	12月28日	上水道課	・	下水道課
市立半田病院	平成27年	12月25日	医務局	・	看護局
			事務局		

第2 監査の方法

平成27年度の財務に関する事務の執行及び経営に係る事業が、関係法令等に基づき、適正かつ効率的に執行されているかどうかを主眼として平成27年11月2日現在で調製された資料により、監査委員室及び現地において関係職員からの説明を聴取し、監査を実施した。また、劇薬等薬品や金庫の管理状況、教職員のシステム関係についても重要なテーマとして監査を実施した。

第3 監査の結果

財務に関する事務の執行状況は、一部に検討・改善を要する事例が見受けられたが、おおむね適正かつ効率的に執行されていると認められた。

なお、検討・改善を要する事項については、以下に要望事項を付したので留意されたい。

第4 監査結果の処理基準

処理基準は、「指摘事項」「注意事項」又は「要望事項」として記載するとともに、議長、市長及びその他の執行機関に報告し公表する。

なお、「指摘事項」及び「要望事項」については、措置の報告を求めるものとする。

- (1) 指摘事項 法令等に違反する事項で、是正改善を要する場合は文書で措置状況の報告を求め、その結果を公表する。
- (2) 注意事項 是正改善を要する事項で、財務事務の実務上の誤り等で内容が比較的軽易な場合は部課長に対して文書で注意する。
- (3) 要望事項 財務事務及び行政の運営等につき、その適正及び効率性の確保に資する検討・要望事項で、改善すべき事項を含むときは文書で措置状況の報告を求める。

教育委員会

1. 図書館

(1) 事業の実施状況

本市の図書館は26年度末現在で蔵書数513,870冊、登録者112,738人、入館者377,428人、館外貸出点数も1,032,647点となっているが、テレビやゲーム、インターネットや携帯端末等の情報メディアの普及により読書離れが進むなか、貸出し状況は減少傾向が続いている。こうした状況を受け、図書館では利用者の増加を図るべく、「魅力ある図書館づくり」としてインターネット環境（無料Wi-Fiサービス）の整備、介護保険施設等への宅配貸出しサービス、視聴覚資料室の展示方法見直し等を実施し、サービス改革に取り組んでいる。

また、子ども読書活動推進事業の一環として、市内各小中学校等への「巡回文庫」や「読み聞かせ、ブックトーク」「ぬいぐるみお泊り会」や、博物館と合同で「ナイトライブラリー」などにも取り組んでいる。

(2) 要望事項「図書の整理について」

年間1万7千～8千冊の新刊を購入しており、閉架室は手狭な状態である。苦しいながらも本が溢れないように努力をしているが、貴重な資料以外については除籍を推進して、スペースの確保を図られたい。



<「閉架室」の様子>

2 博物館・新美南吉記念館

(1) 事業の実施状況

博物館は、昭和59年10月に図書館との複合施設として開館し、知多半島の自然・歴史、半田の祭礼・酢醸造を常設し、また年に数回企画展等を開催している。27年度においては、生涯学習課より移管された文化財保護事業、旧中埜家住宅保存管理事業や、企画展2回、館蔵品展2回、知多工芸展、博物館友の会合同展を開催している。なお、「半田の酢醸造用具」が国の重要有形民俗文化財の答申を受けた。

新美南吉記念館については、平成6年に新美南吉の生誕80年を記念し設立された記念文学館で、南吉の残した各種の資料を始め、児童文学関係・郷土関係・教育関係の図書資料を収集し、郷土性豊かな南吉文学に広く親しむことを目的としている。27年度においては、7月の生誕祭、9月の秋まつり、3月の貝殻忌や、「終戦70周年記念特別展」などの企画展等を開催し、魅力ある記念館づくりに努めている。

(2) 要望事項「博物館収蔵品の管理について」

多くの収蔵品を所蔵しており、スペースの関係で手狭になっているため、一部の収蔵物（書籍類）が廊下に置かれている状態である。不要の基準を整理し、場所や管理の手間にも費用が発生しているとの認識のもと、収蔵庫の整理整頓を実施し、スペースの確保を図ること。また、段ボールで山積みの保管は荷崩れの危険性もあるので、プラスチック製の固い箱などで管理することと、収蔵庫のどの棚にあるのか誰が見てもわかるように表示についても整理をされたい。



<美術品収蔵庫の内部>

3. 小中学校・幼稚園

(1) 事業の実施状況

- ・半田小学校：「なかよく すすんで ほがらかに」を校訓に、「子どもが楽しく通い、保護者・地域住民に信頼される学校をつくる」を経営方針として、PTA活動を中心に夏休み出前講座や防災訓練など地域との連携強化に努め、ユニバーサルデザイン授業の取組み、いじめ撲滅の取組み強化に力を入れている。
- ・乙川小学校：校訓の「自主 敬愛 勤労 健康」を4つの柱として「人を思いやる優しい心を持ち、強く健やかに生きる力を身に付けた児童の育成」を教育目標にし、ユニバーサルデザインを考え指導することを課題にして取組んでいる。また、PTA会員による読み聞かせグループや、定年された方達のサポートチームが授業の補助に入ってもらおうなど、地域の方の力も借りながら実施している。

- ・ 亀崎小学校：「正しく 強く 美しく」を校訓に、「たくましく、心豊かに生き抜く、主体的な人間の育成」を教育目標とし、子どもとできるだけ一緒に時間を過ごし、理解し、子どもの幸せのためにまず教師が規範を示し、持続可能な発展のための教育（ESD）の視点で実施している。また、防災教育にも力を入れており、今年度「ぼうさい甲子園」グランプリを受賞した。
- ・ 花園小学校：「明るく、正しく、たくましく」を校訓に、「心身ともに健康で、向上心をもって自分を高め、たくましく生きる児童を育てる」を教育目標とし、学級単位や学年単位ではなく学校全体で同じ問題を共有し、互いに協力し、高め合う仲間『チーム花園』として指導・支援することを重点努力目標としている。
- ・ 成岩中学校：「花とあいさつ」を合い言葉に、豊かな心情をもち、創造的で活力に満ち、心身ともに健全で、「徳・知・体」の調和のとれた生徒の育成をめざし、「生徒と共に成長する教師」を今年度の目標として、安心・安全の生活基盤づくり、たのしい授業づくり、いじめ・不登校対策、生徒指導体制を重要指導体制として力を入れている。
- ・ 半田幼稚園：「夢をもち心も体もたくましい子」をめざす幼児像として、互いに認め合い協力する子、よく考えて行動する子、話をよく聞き考えを話す子、豊かな感性と創造力のある子を育成すべく、思考力の芽生えを培うことを主題に、遊びを大切に取り組んでいる。また、食育、飼育や、小学校、農業高校との交流など、連携をとり保育を進めている。
- ・ 亀崎幼稚園：今年度4月より長時間保育、自園調理給食、子育て支援室、短時間幼児の預かり保育など様々な機能を加えた幼稚園型の認定こども園として新園舎でスタートし、新しい環境を有効に保育に活かすことができるように『「人とかかわる力を育むためには」－新園舎での環境づくり』を研究課題として、職員間でアイデアを出し合い、環境を工夫することで人と関わる力を育み、子どもたちの遊びや生活が充実したものとなるように努めている。

(2) 全小中学校、幼稚園における共通する要望事項

① 理科準備室における劇薬管理の見直し

劇薬については、昨年度指摘した使用量の測定・記録方法について、学校教育課が主体となって見直され、全校統一様式での管理を行っていた。さらに適正な管理とすべく、下記の点についても見直しを図りたい。

- ア 管理庫扉の表示と実際に入っている劇薬に相違（入っている劇薬の表示がない、古いラベルが残っている等）があるので、統一すること。また、ヨウ素の保管など規定に記載した運用と相違があるときは、規定に追加するなど見直しをすること。
- イ 他の瓶に移し替えたときには「劇薬」の表示や使用の注意情報を転記すること。また、数個に小分けした場合はナンバーをつけること。
- ウ 膨張、揮発により内量が増減したときは、管理台帳に異常ではない旨を記載すること。
- エ 使用期限を確認し、廃棄するときは証跡を残すこと。
- オ 転落防止ケースを使用すること。



<半田小学校：薬品庫>



<乙川小学校：移し替えた薬品>



<花園小学校：薬品庫内>

② 遊具、設備等の自主点検について

自主点検は、業者点検で指摘された箇所や今までで異常があった箇所、特に注意することなど、どこを何を確認するかをチェックリストにすることで、担当者が変わっても同じレベルで見ることができる。また、点検で出てきた問題点を抽出して、最後まで処置をどうしたかをフォローアップするなど、強化に向けた検討をすること。

③ 幼稚園の現金管理について

幼稚園の現金管理は、各担当者がそれぞれで収入や支払いのあった都度に通帳記載をして証跡を残し、帳簿も記載するなど事務負担が大きい。一人に集約して会計ソフトを導入するなど、改善ができないか検討をすること。

④ 金庫管理について

金庫内の必要な書類についてはリストアップが徹底されているが、同じ題名はナンバリングして何冊あるか一目でわかるような工夫や、リストに廃棄期限を記載するなど、さらなる向上を図られたい。また、棚卸時に誰がチェックしたか、誰がいつ廃棄したかなど、証跡を残すこと。



<成岩中学校：金庫内>

⑤ 学年費等の未納について

未納となっている学年費等については、生徒・児童が卒業後も引き続き徴収に向けた折衝をしている。先生も変わっていくなか、どこまで学校が実施するか、どこが引継ぎ実施するかを検討すること。

⑥ セキュリティ管理について

個人情報としてどこまでの範囲をきちんと管理するのかをリストアップして共有化すること。また、管理責任者、管理担当者の明確化や、取り出し、印刷、コピー等の情報の移動のルール、保管期間や廃棄方法について管理マニュアルとして文書化し、各職員に取り扱いを徹底すること。



<半田幼稚園：USBメモリのセキュリティ強化を>

⑦ 備品管理について

使用見込のない備品についても、積極的に除却を推進し、スペースの確保を図られたい。



<亀崎小学校：購入後未使用備品>



<亀崎幼稚園：倉庫内>

市議会事務局

1 議事課

(1) 事業の実施状況

議長を始めとした市議会議員の職務を補助する組織として設置され、円滑な議会の運営に資することを目的としている。なお、27年度の主な活動としては、平成19年度以降支給を停止していた政務活動費の支給再開に関して、会派の代表者による任意の検討会において協議を重ねた後、正式に政務活動費検討委員会を立ち上げ、28年度からの支給開始に向け検討をしている。

(2) 要望事項「会議録検索システム借上契約について」

システム導入時から随意契約により契約の相手が固定されており、利便性や利用状況等を確認した上で、本当にその業者しか受注できないものであるのか、競争性を確保した契約方法へ変更できるのかを含めて、検討されたい。

水 道 部

1 下水道課

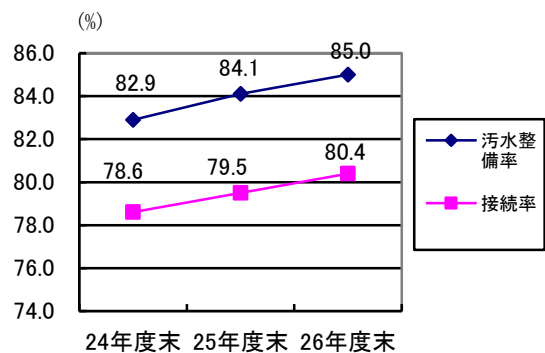
(1) 事業の実施状況

下水道課は、生活雑排水を下水処理し、生活環境の改善と公共用水域の水質保全を図る汚水整備事業と、排水管渠の整備や排水ポンプによる強制排水により集中豪雨による浸水被害の軽減を図る雨水整備事業を担っている。汚水整備事業では、26年度に中央処理分区18haの整備を行い、26年度末の供用開始済面積は1,811.3haとなり、接続率80.4%、年間10,397,985 m³の汚水を処理している。また、雨水整備事業では、供用開始後経年劣化が著しい排水ポンプ場の設備機器の改築・更新に向けた長寿命化計画の策定に取り組んでいる。

27年度は、28年4月からの地方公営企業法適用に向けて条例・規則等の制定・改正や企業会計システムの構築、「お財布にも優しい下水道」をテーマに掲げて下水道未接続世帯への接続向上対策などに取り組んでいる。

(2) 要望事項「下水道接続率向上について」

接続率向上は市の重点課題のひとつとして対策に取り組んでいるところであるが、26年度末の接続率は80.4%に留まっている。今年度よりテーマを掲げて3年をひとつの区切りとして、手法と多様性を向上し、いろいろな方法で取り組んでいるが、「下水道接続は義務」ということを強くPRし、実施できる対策についてはすぐに実施するなどスピード感をもって対策に当たられたい。



<下水道汚水整備率と接続率の推移>

2 上水道課

(1) 事業の実施状況

ア 業務状況

平成 27 年 9 月末現在における業務状況は、給水人口 117,970 人、給水戸数 52,362 戸であり、前年同期に比べ 給水人口は 229 人(0.2%)減少しているものの、給水戸数は 431 戸(0.8%)増加している。

人口総数に対する普及率は、前年同期と変わらず 99.39%となっている。

愛知県からの受水量(配水量)は 7,132,959 m³であり、前年同期に比べ 143,303 m³(2.0%)減少している。また、配水量と給水量を対比した有収率は 93.9%であり、前年同期に比べ 1.4%改善している。有収率改善の主な原因は、砂谷第 2 高架型配水池の建設が終わり、旧配水池からの漏水量が減少したことなどが考えられる。

経営状況は、給水量が 6,696,126 m³で、前年同期に比べ 29,631 m³(0.4%)減少し、給水収益は 935,444 千円で、前年同期に比べ 1,650 千円(0.2%)減少し、20 年度以降収益の減少傾向が続いている。

イ 地震対策事業

南海トラフを震源とする大規模地震などに対して、砂谷配水池に直結する大口径配水管の耐震化と、乙川小学校、協和公民館の防災拠点施設に対し迅速に給水できる応急給水栓の整備を実施している。大口径配水管の耐震化率は 53%、防災拠点施設への応急給水栓設置数は 35 か所となっている。

また、市防災訓練での応急給水栓設置訓練、水道指定工事組合と合同で、空気弁から配管設置訓練を実施し、災害時での対応の共有化を図っている。



<乙川小学校に設置した応急給水栓>

ウ 砂谷配水池の整備事業

施設の省エネルギー化と増圧ポンプ廃止による維持管理費等のコスト縮減を図るため、老朽化した砂谷配水池のうち 2 池は耐震補強をし、残り 2 池を自然流下方式の高架型配水池に改築し、30 年度に深谷・吉田増圧ポンプ場を廃止する予定をしている。

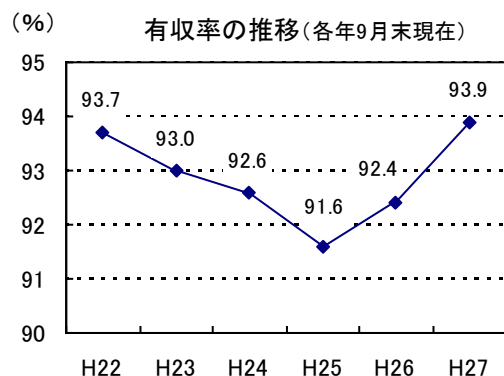
27 年度は、昨年度に完成した砂谷第 2 高架型配水池に引き続き、砂谷第 3 高架型配水池建設工事に着手している。



<完成した砂谷第 2 高架型配水池と建設開始した砂谷第 3 高架型配水池の様子>

(2) 要望事項「水道経営基盤の強化について」

有収率の向上は、砂谷第 2 配水池が新しくなったことで、古い配水池での漏水が減少されたためとみられる。しかしながら、今後も人口減少見込みや節水型機器の普及などにより水道経営環境は依然として厳しい状況が見込まれる。現在は黒字経営であるが、水道料金以外の別の収益事業はないか調査研究をするなど、長期的な視点に立って、基盤強化に努められたい。



市立半田病院

1 事業の実施状況

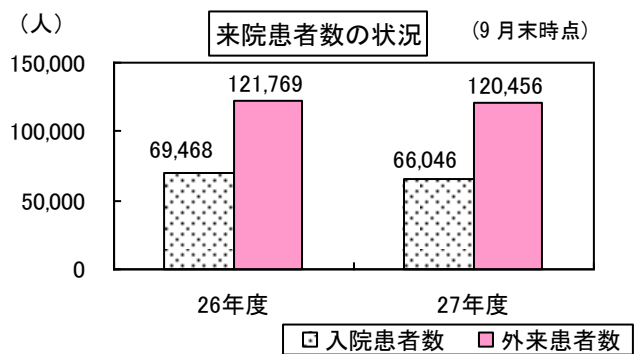
(1) 業務の状況について

半田市立半田病院は、知多半島医療圏における、質の高い急性期医療の提供、災害時の医療拠点となることを重要な使命として、医療安全の推進、医療連携の強化、医療教育の充実、必要職員の確保、病院機能の向上、健全経営の目標を掲げ、4月から神経内科、10月からリウマチ科を開設し、診療体制の充実を図っている。また、がん相談支援センター（5月7日）、在宅医療サポートセンター（7月1日）を設置・開設し、地域医療機関との連携を図っている。

近隣で常滑市民病院、西知多総合病院が5月に相次いで開院し、職員の確保や患者数の減少が懸念されるなか、開院から33年経過した本病院も新病院建設に向け検討をしている。

ア 患者数について

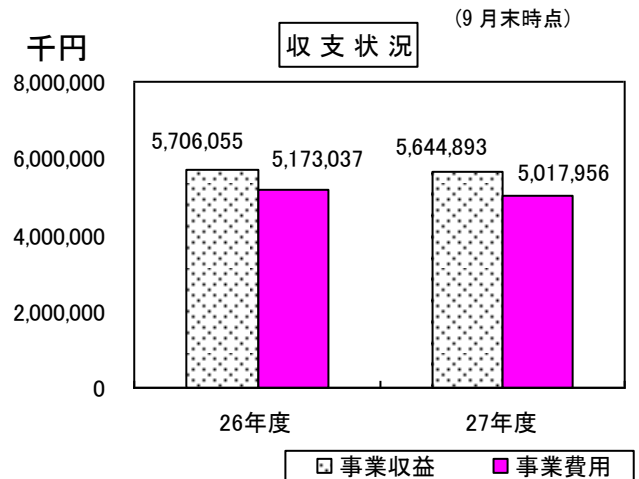
平均在院日数の短縮（26年度 10.5日→27年度 9.9日）などにより、延べ入院患者数は前年同期に比べ3,422人（4.9%）減少し、外来延患者数は前年同期に比べ1,313人（1.1%）減少している。



イ 経営状況

事業収益は、前年と比べ61,162千円（1.1%）減少している。これは主に、外来収益で26,212千円（1.7%）の増はあったものの、6月から入院収益で総合入院体制加算の取得などにより1人当りの単価が上昇したが、平均在院日数が短縮したことによる109,712千円（2.8%）の減によるものである。

事業費用は、155,081千円（3.0%）減少している。これは主に、給与費で20,722千円（0.9%）の減、材料費で32,787千円（2.2%）の減、光熱水費、賃借料等の減により経費で60,633千円（6.9%）の減のほか、昨年度は地方公営企業会計制度の見直し対応のため貸倒引当金を一括計上したこと等による、その他特別損失で48,846千円（14.2%）の減等によるものである。



(2) 新病院建設について

現在の半田病院は、移転新築により昭和57年に開院し、築後33年が経過し、施設の老朽化や、職員増加によるスペース上の問題等、また、近隣の常滑市民病院や西知多総合病院で新病院による診療を開始したことで、今後は人材の確保や経営面においても一層厳しさを増すことが見込まれており、早期に新病院建設を検討する必要がある。

27年度は、市民アンケートの実施、「あり方検討委員会」の開催など、新病院構想を具体化するため、検討をすすめている。

2 要望事項「新病院建設について」

新病院建設に関しては、候補地の決定を最重要課題として検討を進めていると思われるが、さらに、候補地決定後の新病院建設計画の早期立案、並びにスケジュール遅延リスク（開業時期が遅延した場合の医療提供への影響やコスト分析等）の検討も重要課題の1つである。新病院がいつ開業できるのかは、今後の設備投資の計画や、現行施設・設備・機器の更新、修繕に大きな影響を与え、想定外のコストを発生させることにつながりかねない。今後想定される様々な意思決定は、十分な議論を経て慎重に行わなければならないが、時間軸を意識した機動的な決定も必要であることを認識していただきたい。

第5 むすび

監査の結果は以上のとおりである。

今回の監査では、学校などの施設へ出向き、説明を聞きながら現場確認を行っている。その中で、監査の目的・効果については、次の4点を主観とした。

①財産管理について

公金を使って購入している設備や備品等の管理（取得、廃却等）及び台帳の整備状況を検証する。

②リスク管理について

個人情報セキュリティ管理や想定される事故、災害などのリスクに対してどのような対応をしているかを検証する。

③監査の効果

監査の事前準備として実施する自己点検により、現行の業務ルールの見直しや保管備品等の整理整頓がなされるはずである。さらに、監査指摘事項への対応により不備の改善がなされる。

④課題、要望の抽出

現場に潜んでいる課題の抽出や要望事項の聞き取りにより、今後の改善につなげたい。

全般的な管理状況については、おおむね良好であったが、今回指摘した事項については、全庁的にも言えることもあるので、この報告書をきっかけに各課でもう一度見直しや検討をされたい。その際には、担当者間でぜひ議論し、そのことによってリスク管理の意識を職場全体で高めていくことを望みたい。そして、日頃からの事務の適正化や効率化については、更なるチェック体制の強化に努められることを期待し、むすびとしたい。